

はじめに

歯と口腔の健康は、口から食べる喜び、話す楽しみを保つ上で重要であり、生活の質にも大きく関連します。本県では、平成25年4月に、「健康づくり文化」の定着と健康寿命の延伸を目指して、「鳥取県健康づくり文化創造プラン(第二次)」を策定いたしました。本プランでは、「ココ(心)カラ(体)げんき鳥取県」をキャッチフレーズに健康長寿とつとりの実現を目指して推進しており、歯科保健においても計画に基づく具体的施策等に取り組んでおります。

また、平成25年12月には、歯科疾患の有病率の低下を図り、県民の生涯にわたる健康の保持増進に寄与することを目的に「鳥取県歯と口腔の健康づくり推進条例」を制定し、一層の推進を図っているところです。

平成元年に厚生労働省が「80歳で20本の歯を残そう」という8020(ハチマルニイマル)運動を提唱し、長きにわたり歯周病予防、歯の喪失防止を目的に取り組んでまいりました。今回の調査結果で、80歳以上の一人平均現在歯数は、13.5本で前回調査より1.3本増加し、80歳以上で20歯以上自分の歯を有する者の割合は増加傾向にあり、着実に8020の達成に近づいております。

また、アンケート調査では、今回、新たに全身疾患の有無の項目を追加することで、全身疾患を有する者の方がむし歯罹患率が高いなど、全身疾患と歯科疾患の関連性を把握することができ、今後取り組むべき重要課題も明確になりました。

この調査結果を基に今後も具体的な目標を設定し、関係機関等の皆様と多様な連携・協働をし、目標達成に向けた取り組みを進めて参りたいと思います。県民の皆様の健康を保つために引き続き、歯と口腔の健康維持・増進及び8020の実現を目指して、施策展開を推進していく所存でございます。

終わりに、今回の調査に御協力いただきました県民の皆様及び関係機関の方々をはじめ、調査の実施、分析等に多大な御協力をいただきました一般社団法人鳥取県歯科医師会の皆様に心から感謝申し上げますとともに、今後さらなる御協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年3月

鳥取県福祉保健部

部長 藪田 千登世

ご あ い さ つ

県民の歯科疾患実態調査は、「鳥取県8020運動推進協議会」に於いて、確実に8020運動を推進していく上で、まずは県民の口腔内の健康状況を把握し、その実態を分析し、鳥取県民の各年齢ステージに応じた歯科保健目標を設定することが重要であるとの観点から、平成7年に第1回目の調査が市町村による健康事業参加者・事業所の勤務者の20歳以上を対象として実施されました。これにより鳥取県では初めての県民の歯科疾患の実態把握を得ることとなり、30歳代で現在歯28本以上、50歳代で25本以上、そして65歳以上に於いては無歯顎者の割合を25%以下にするとした県民の歯科保健目標が設定されました。目標に対しては、その評価と更なる健康増進に向けた取り組みを進めていくためにもこの調査の継続が求められ、その後、平成12年、平成17年、平成22年と5年毎に実施してきましたが、5回目となる今回は、本来平成27年度に行うところ、鳥取県文化創造プラン最終評価年度のデータを、一番直近のものとして反映させるため、前回から6年目の実施となりました。

調査結果の概要によりますと、歯の状況は、現在歯については全ての年代に於いて過去の調査に比べて残存歯数の増加を認めるとともに60歳以上については過去に比べ（平成17年70歳代で13.8本、80歳代で9.0本、今回平成28年では70歳代18.4本、80歳代で13.5本）と著しい傾向が見られました。むし歯については20歳代、30歳代では減少傾向が見られるものの、60歳代からは増加傾向にあり、70～80歳代に於いては増加傾向が顕著でありました。歯周病については、有病者率が年代を追う毎に増加しており80歳以上での増加が顕著であり、歯肉に炎症所見を有する者・進行した歯周炎を有する者の減少を図る取り組みが求められます。

今回の調査結果を見ますと、私ども鳥取県歯科医師会が長年にわたり取り組んできた各種歯科保健事業活動の成果が少しずつとはいえ着実に現れてきたものと考えます。「健康寿命の延伸」に歯科医療が大きな役割を果たしていることが多くの県民の皆様にご理解を頂いた今、目標に向かって今後とも邁進いたす所存であります。

関係各位のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

一般社団法人 鳥取県歯科医師会
会 長 樋口 壽一郎